1

五月にしてはひどく暑い。夜になって少しはやわらいだような気もするが、芝浦運河の黒い水面から瘴気にも似た湿気がたちのぼり、開けはなった窓から入りこんで、じっとりと体にまつわりついてくる。

私は、明りを消した部屋の、窓に近いソファに腰かけて外を眺めていた。

運河の悪臭はそれほど気にならない。芝浦の埋立地の、運河の支流に囲まれた中州に建つマンションの八階からは、真夜中にさしかかろうという東京の、うずくまった巨獣のような風景が見える。

巨獣のさかだった毛先には、光を放つ寄生虫に似て、赤や緑、青などの煌めきが点在している。

巨獣はまだ眠りについていない。複雑にからみあった毛の間を疾走する車の数、そしてエンジンの叫びに混じってかん高い悲鳴をあげるサイレンのこだまがそれを証明している。

私はアイスコーヒーの入った紙コップを手に、デスクの上のパーソナルコンピュータを見やった。〝福耳〟がこしらえたものだ。

コンピュータの本体はデジタル無線機とつながっている。

二台の機械の中でおこなわれているのは、猛スピードの洗いだしだ。東京の空を、それこそ無数に飛ぶ電波の中から、ある周波数のものだけを特定し、しかもそれにかけられたデータ変換という形の「秘話パターン」を読みとって、意味のある音声に組み直す。

洗いだしに入ってから、三十分が経過していた。

デジタル無線機のチャンネル表示が、コンピュータの指令を受けて、四つの窓の中で目にもとまらない速さで切り替わっている。

洗いだしは、数時間に及ぶこともあれば、ものの数分で完了することもある。

パチンコ屋のデジタル台に似ている、といえなくもない。

洗いだしが成功すれば、壁ぎわにおいたスピーカーから自動的に音声が流れだすはずだ。それまで私は、ただ待っている。

ぬるくなったコーヒーをもうひと口飲み、再び窓の外に目を向けた。

窓の外に比べ、建物の中は静かだった。マンションとはいえ、テナントの大部分はオフィスだ。

青山や原宿の家賃高に見切りをつけた、あるいは追いだされたアパレルメーカー、通信販売専門のビデオプロダクション、高利貸し、デザイン事務所、などが入っている。

この建物の二十四時間を知っているのは、事務所兼住居として部屋を使う私のほかは、ほんの数人くらいだろう。

窓の下を、非現実的なほどのまばゆい光を放って、モノレールが通過した。
二十三時十分羽田発の、浜松町行き最終電車だ。
輝く四角い窓からは、旅に疲れ、スーツケースを膝の間にはさんだ乗客たちの姿が、かいま見える。
連中がこれから向かうのは、郊外に建つちっぽけな我が家か、それとも、この巨獣の体毛の一本である、箱のようなホテルの一室か。
モノレールは体をくねらす環虫類のように、毛先の間をくぐりぬけていく。
釣りエサに使うイソメ類のある種のものは、発光体を備えている、と何かの本で読んだことがある。たとえば、アオイソメだ。緑灰色をした、ミミズの親戚のような奴だが、夜釣りでは、海中で緑色の光を放ち、魚はそれを目あてに食いついてくるという。
モノレールはそれに似ていた。
ちがうのは、乗っている連中が、誰も自分の体に鉤(はり)がつき刺さっているのに気がついていない点だ。
連中が魚なのか、エサなのか、本当のところは、私にもわからない。ただ、どちらにしても、いずれは、魚の口か、釣り人の手で、息絶える運命にある。そう、魚ならば、あるいは、釣り鉤にかけられることも、他の魚に食われることもなく、安息な一生を終える可能性がある。

が、釣り具屋で売られている、ビニールパックに入ったイソメには、そんなチャンスはない。鉤に吊るされるか、海中で魚に食われるか、どちらにしてもろくなことはなさそうだ。
決まった。あんたたちはイソメだ。イソメの、足にも似た、あの細かな毛の一本一本に過ぎない。もっとも、俺もそうだがね。
胸のうちでつぶやいたとき、洗いだしが成功した。
「――より各移動、渋谷管内、発砲事件の通報。円山町××番地、ホテル『アイ』。近い局どうぞ」
「渋谷八、渋谷駅前」
「警視庁了解。他にありませんか」
「警視三〇五、現場付近」
「警視庁了解。渋谷八、警視三〇五、現場へ。現場は円山町××番地、ホテル『アイ』。この三階客室から銃声らしき音、悲鳴を聞いたとの訴えで。従業員、トミタという男性より入電。至急現場で調査願いたい」
「渋谷八、了解」
「警視三〇五、了解」
「警視三〇九、現場急行中」

「警視三〇九、現場急行中、警視庁了解しました。なお、現場付近ではサイレン、赤色灯は停止。渋谷八、警視三〇五、警視三〇九は到着後、各乗務員と協力。ひとりで現場に入ることなく、問合いをとり、現場客室を包囲、受傷事故防止に留意の上、事件性の有無を最優先、調査一報されたい。

警視庁から渋谷？」

「渋谷です、どうぞ」

「本件、一一〇番受付番号は一二三五。指令二十三時二十一分、担当キノシタです。なお、至急、専務幹部、および待機車輛派遣を願いたい」

「渋谷了解。担当タムラ。待機車輛一号、および専務幹部は渋谷十五にてＰＳからすでに出向ずみです」

「警視庁了解。なお、渋谷管内の事案、詳細判明するまで、通話統制を実施します。各局、了解されたい」

グッドタイミングだった。私は紙コップをおき、ソファから立った。

この時間なら、バイクよりも車の方がいい。カメラバッグをつかみ、部屋を出て、エレベータに向かう。

私は地下一階の駐車場におりると、そこに止めた四ＷＤのワンボックスカーに乗りこんだ。助手席にカメラバッグをおく。

この続きは、書籍でお楽しみください。

◎注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償に拘らず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製等の違法行為、もしくは第三者へ譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。